

岡山県感染症週報 2015年 第39週 (9月21日～9月27日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2015年 第39週 (9/21～9/27) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第38週 2類感染症 結核 1名(90代 女)
5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名(10代 男)
第39週 2類感染症 結核 1名(80代 男)


■定点把握感染症の発生状況

○RSウイルス感染症は、県全体で37名(定点あたり0.78→0.69人)の報告があり、前週より減少しました。
○手足口病は、県全体で86名(定点あたり2.31→1.59人)の報告があり、前週より減少しました。
○流行性耳下腺炎は、県全体で39名(定点あたり0.59→0.72人)の報告があり、前週より増加しました。

1. **RSウイルス感染症**は、県全体で37名(定点あたり0.78→0.69人)の報告があり、前週より減少しました。例年と比較して、今年は患者の増加時期が早くなっており、今後さらに患者数が増加する恐れがあります。詳しくは、『今週の注目感染症』をご覧ください。
2. **手足口病**は、県全体で86名(定点あたり2.31→1.59人)の報告があり、前週より減少しました。地域別では、ほとんどの地域で定点あたり報告数は減少しましたが、倉敷市(3.09→3.64人)では増加しており、ひきつづき発生レベル3が継続しています。ひきつづき、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。
3. **流行性耳下腺炎**は、県全体で39名(定点あたり0.59→0.72人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市(0.45→1.45人)、備前地域(0.10→0.50人)、美作地域(1.50→2.17人)で定点あたり報告数が前週より増加しています。県全体の報告数は多くありませんが、一部の地域では増加していますので、今後の発生状況に注意してください。この感染症は、ムンプスウイルスによるもので、「おたふくかぜ」とも呼ばれています。予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な特効薬はなく、治療は対症療法が中心となります。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★★★	伝染性紅斑	➡	★★★★★
突発性発疹	➡	★	百日咳	➡	
ヘルパンギーナ	➡	★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡	★	クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少
 : 1.1～2倍未満の減少
 : 1.1未満の増減
 : 1.1～2倍未満の増加
 : 2倍以上の増加

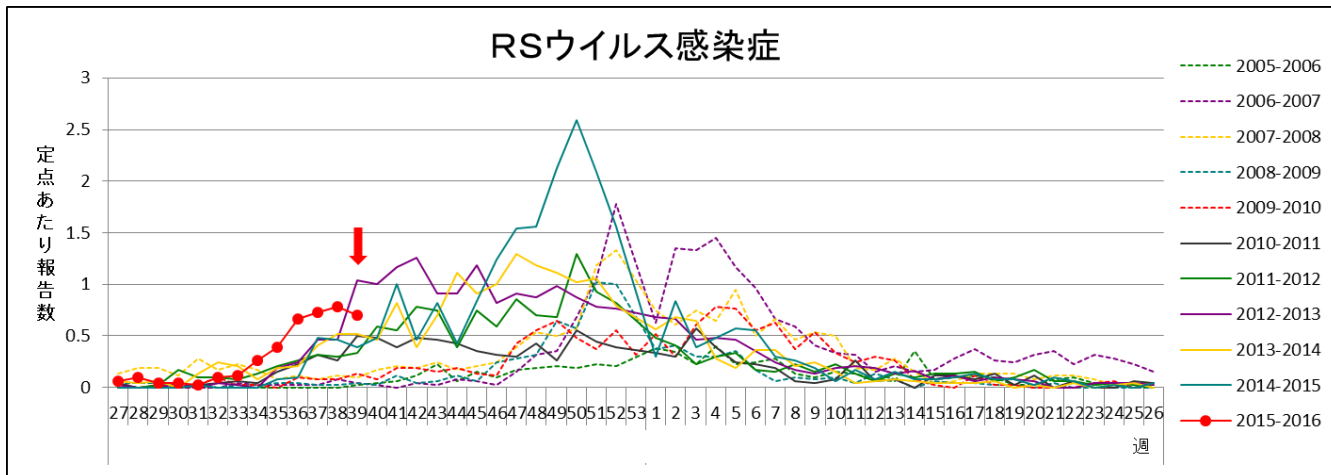
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

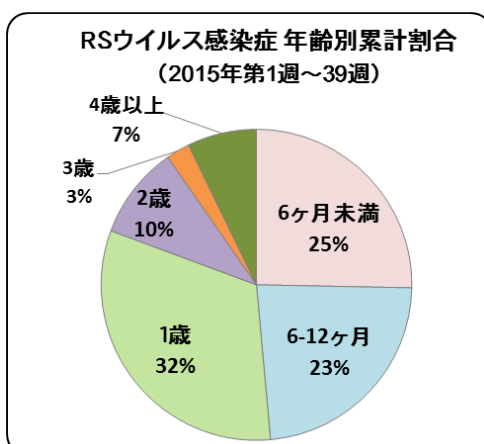
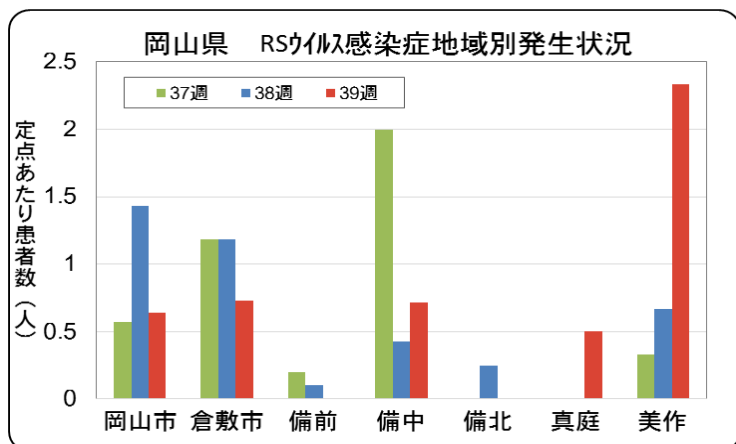
今週の注目感染症

RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】

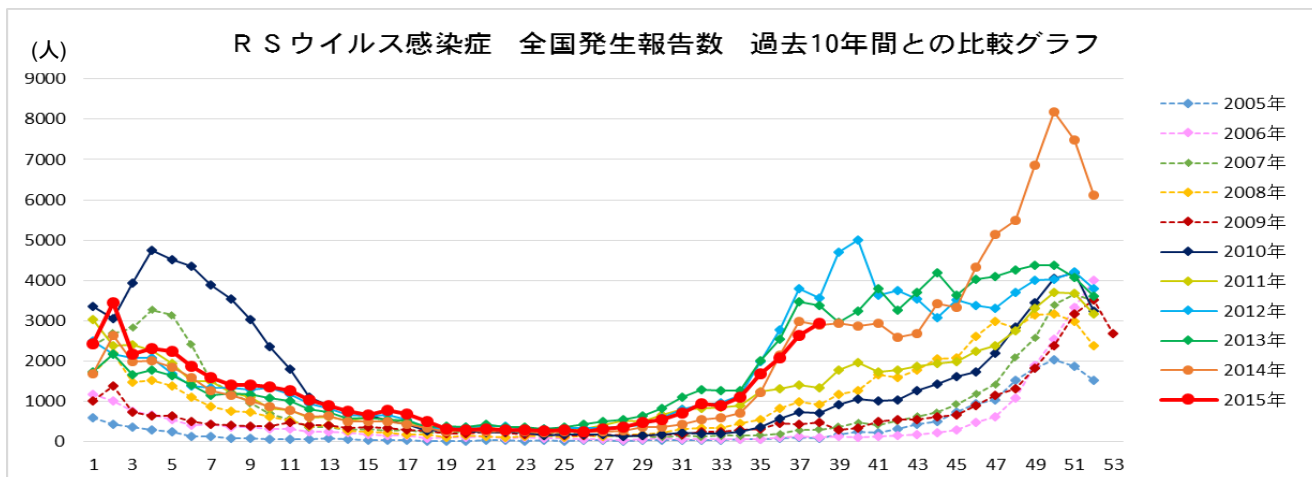


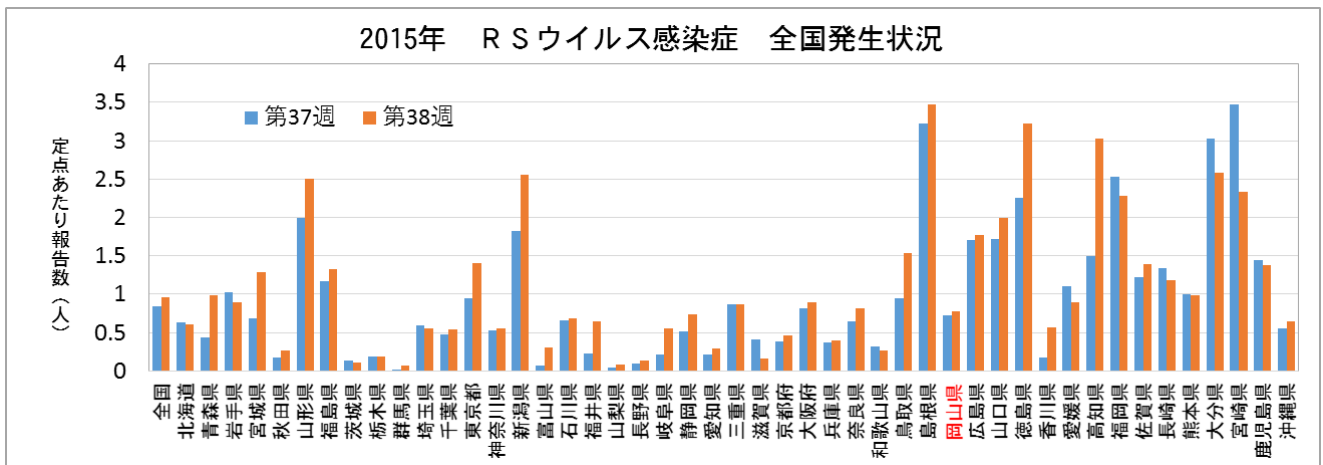
※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。
 RSウイルス感染症は、県全体で37名（定点あたり0.78→0.69人）の報告があり、前週より減少しました。県全体の報告数は減少したものの、地域別では、増加した地域もあり、特に美作地域（0.67→2.33人）では前週より大きく増加しています。2015年第39週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の48%を占めています。



この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあり、症状が悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。例年と比較して、今年は患者の増加時期が早くなっており、今後さらに患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。

【全国の発生状況】





全国の第38週の発生状況を見ると、患者報告数は第34週から連続で増加しており、10年間の同時期と比較して多い状態で推移しています。都道府県別では、島根県（3.48人）、徳島県（3.22人）、高知県（3.03人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。西日本を中心に流行しており、近隣県でも多くの患者が報告されています。

[IDWR 速報データ 2015年第38週（国立感染症研究所）](#)

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。この感染症は、例年冬季に流行がみられていましたが、近年では夏頃から患者が報告されるようになりました。感染後2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約70%の乳児が、1歳になるまでにRSウイルスに感染し、その約3割が下気道疾患を起こすとの報告があります。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人の咳やくしゃみを浴びて、ウイルスを吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり舐めたりすることなどによる、間接的な接触感染で感染します。

【予 防】

RSウイルスの再感染では、風邪のような軽症であることが多いため、RSウイルスに感染していることに気づかずに、人にうつしてしまうことがあります。そのため、せきなどの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染予防に繋がります。風邪をひいたらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。

【治 療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)
[RSウイルス感染症に関する Q&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 39週

（2015/09/21～2015/09/27）

2015年10月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	-	-	2	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	37	0.69	9	0.64	8	0.73	-	-	5	0.71	-	-	1	0.50	14	2.33
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	3	0.21	8	0.73	3	0.30	4	0.57	1	0.25	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	198	3.67	28	2.00	70	6.36	41	4.10	9	1.29	18	4.50	8	4.00	24	4.00
水痘	10	0.19	4	0.29	2	0.18	-	-	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	86	1.59	16	1.14	40	3.64	10	1.00	6	0.86	6	1.50	-	-	8	1.33
伝染性紅斑	14	0.26	8	0.57	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
突発性発疹	12	0.22	4	0.29	5	0.45	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	0.13	-	-	6	0.55	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	39	0.72	3	0.21	16	1.45	5	0.50	-	-	2	0.50	-	-	13	2.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	-	-	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 39週

（2015/09/21～2015/09/27）

2015年10月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	-	-	2	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	3	0.21	8	0.73	3	0.30	4	0.57	1	0.25	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	198	3.67	28	2.00	70	6.36	41	4.10	9	1.29	18	4.50	8	4.00	24	4.00
水痘	10	0.19	4	0.29	2	0.18	-	-	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	86	1.59	16	1.14	40	3.64	10	1.00	6	0.86	6	1.50	-	-	8	1.33
伝染性紅斑	14	0.26	8	0.57	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	0.13	-	-	6	0.55	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	39	0.72	3	0.21	16	1.45	5	0.50	-	-	2	0.50	-	-	13	2.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	-	-	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第39週 2015/09/21～2015/09/27)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	37	8	6	16	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	3	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	-	1	1	1	2	-	5	2	3	3	1	-	2	
感染性胃腸炎	198	6	15	40	22	13	16	14	10	7	6	3	11	9	26
水痘	10	-	-	1	2	1	-	1	3	1	-	1	-	-	
手足口病	86	-	10	27	12	14	10	9	3	-	-	1	-	-	
伝染性紅斑	14	-	-	1	-	1	3	3	2	1	3	-	-	-	
突発性発疹	12	-	4	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	7	-	2	-	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	39	-	-	3	4	5	4	4	8	2	2	1	5	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-

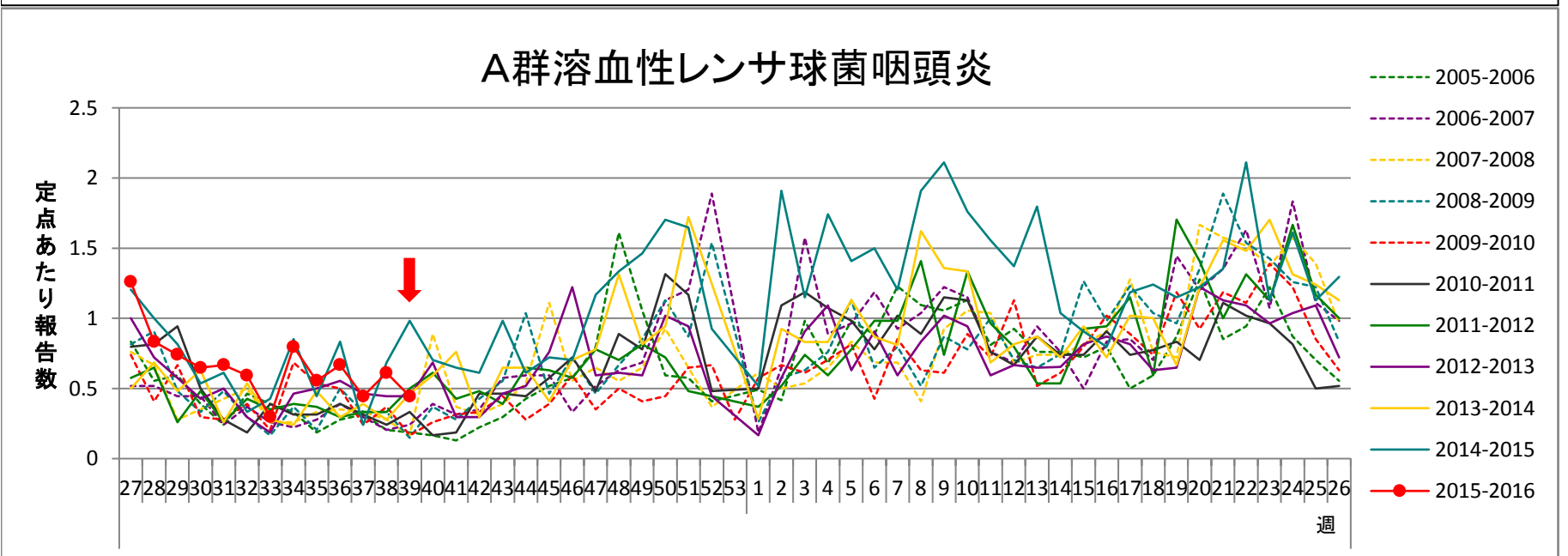
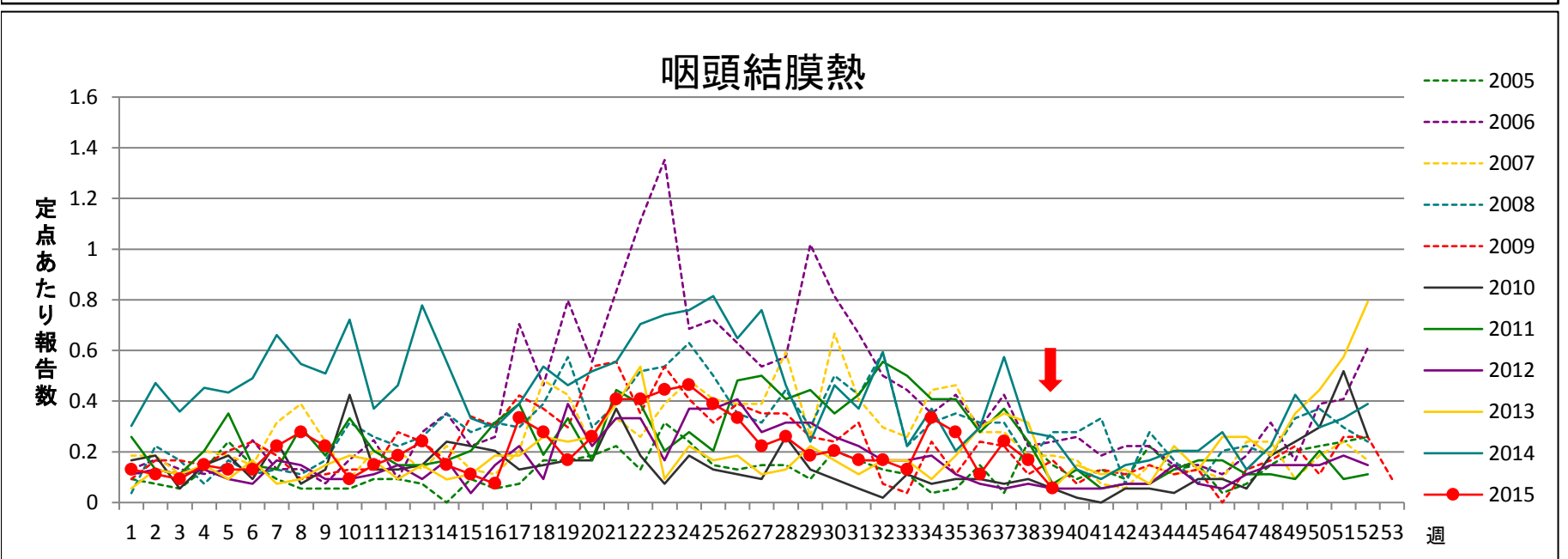
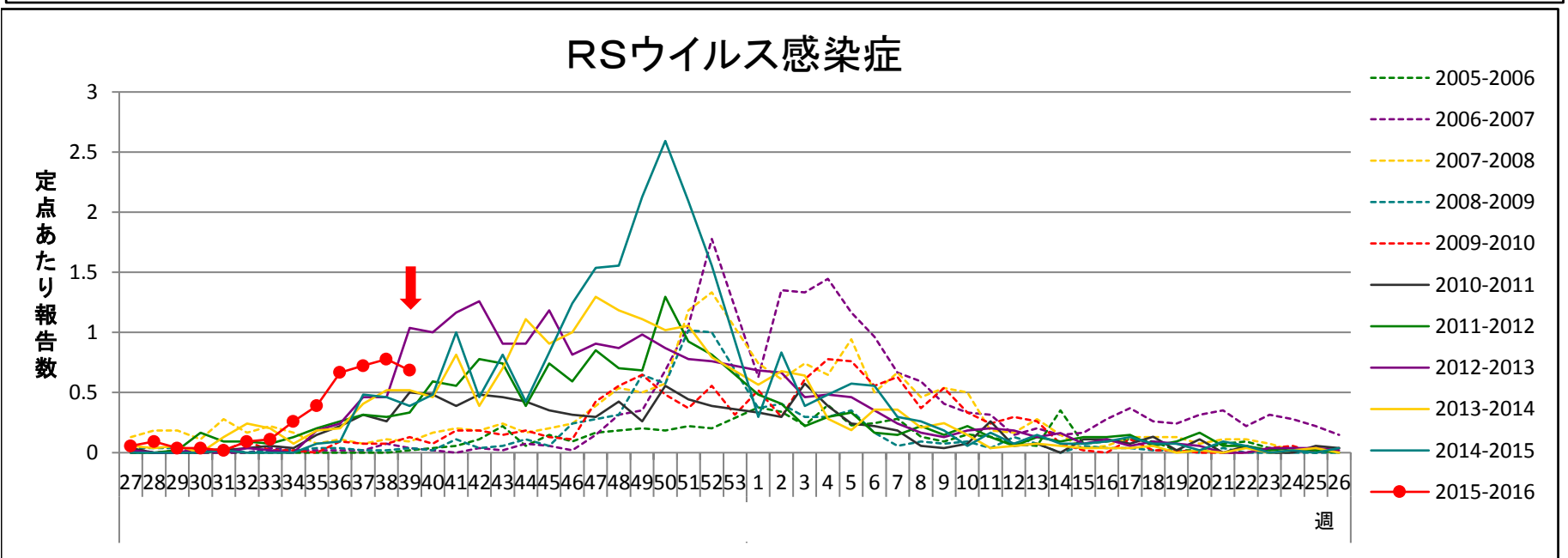
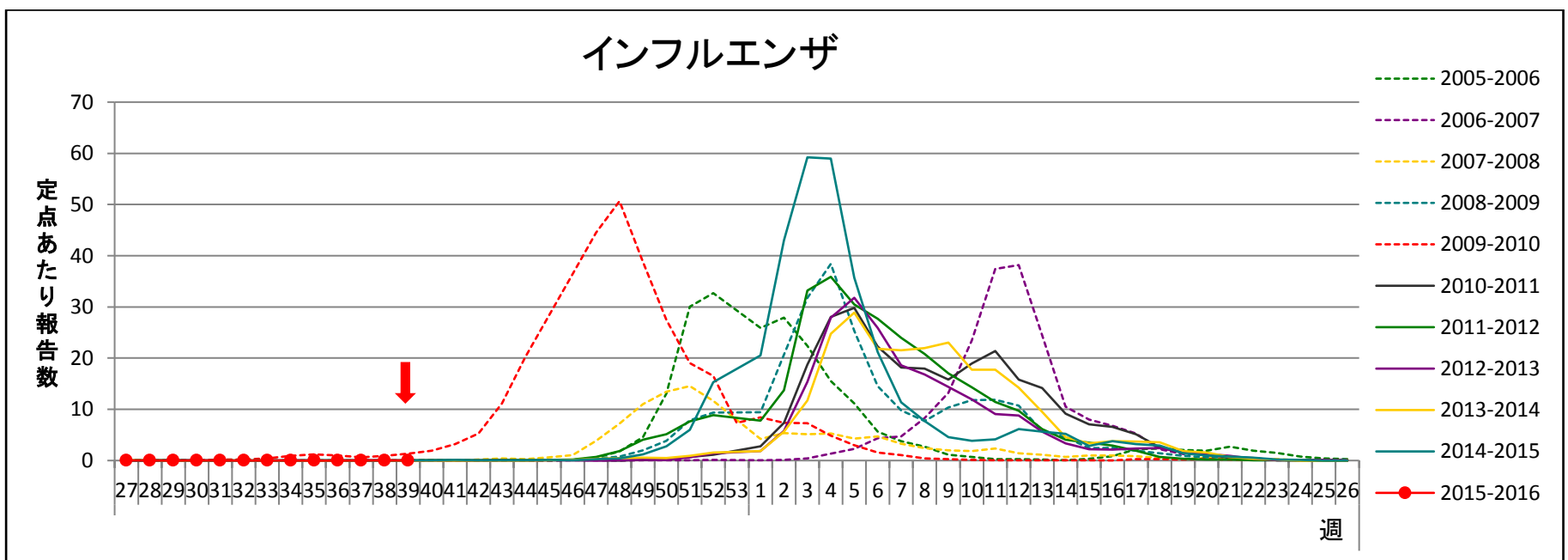
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

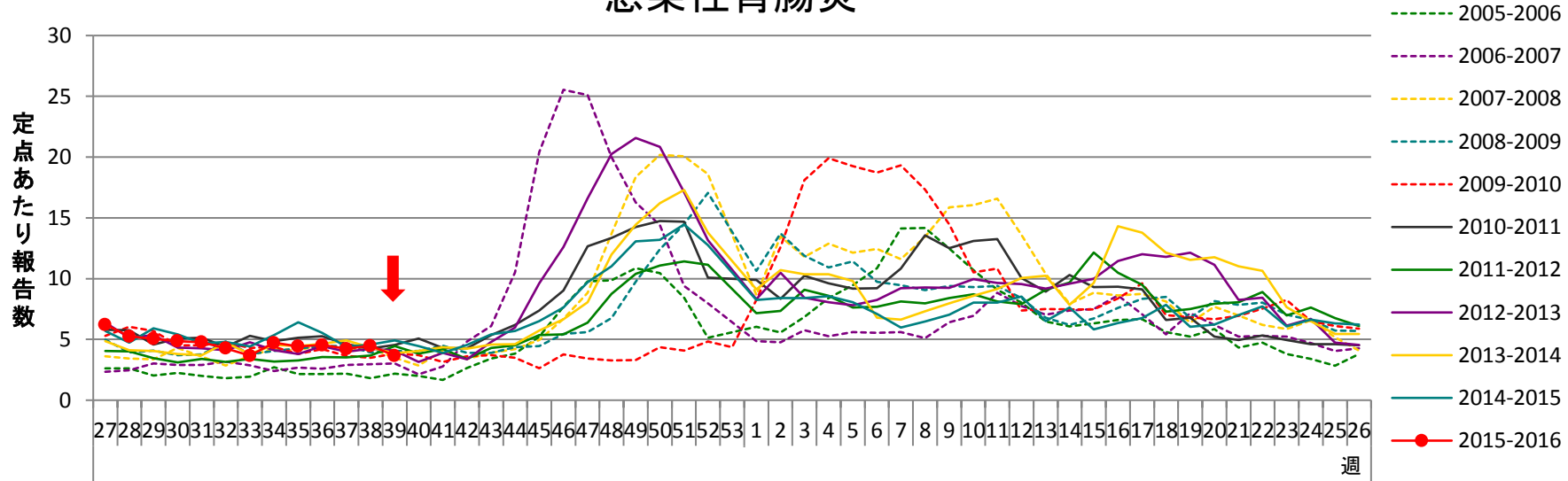
全数把握 感染症患者発生状況

2015年 39週

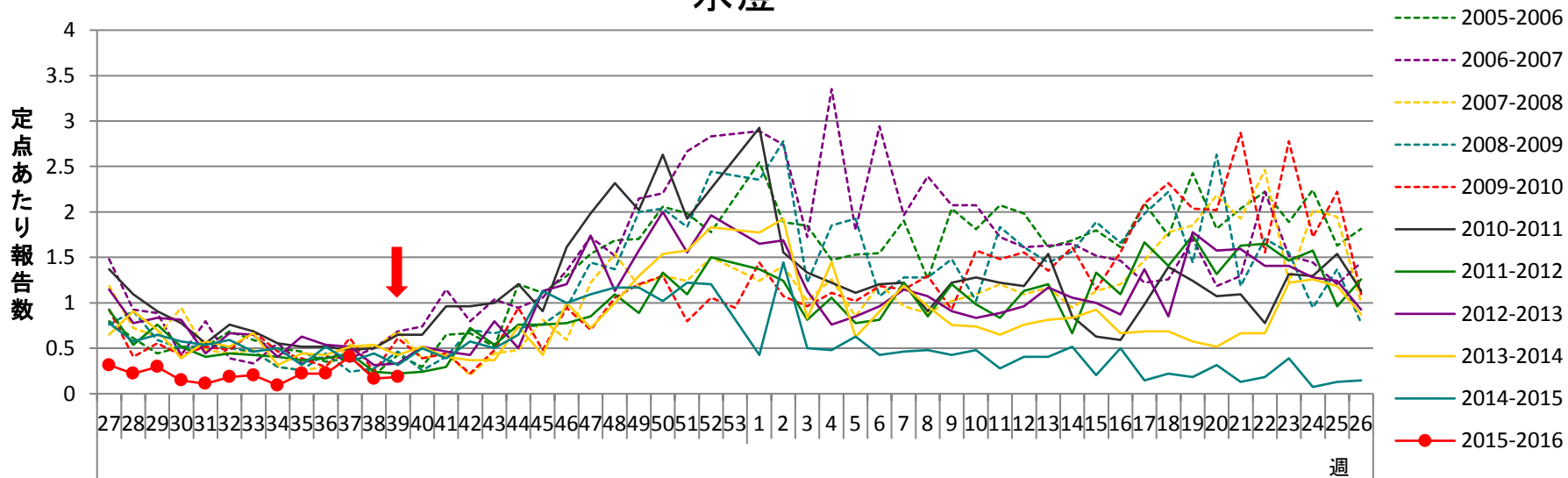
分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	251	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	54	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	3	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	6	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	2	-	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	20	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	15	12	ウイルス性肝炎*3	-	7	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	26
急性脳炎*4		-	11	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	1	3	後天性免疫不全症候群	-	17	21	ジアルジア症	-	2	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	23	27
水痘(入院例に限る。)		-	4	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	12	21
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



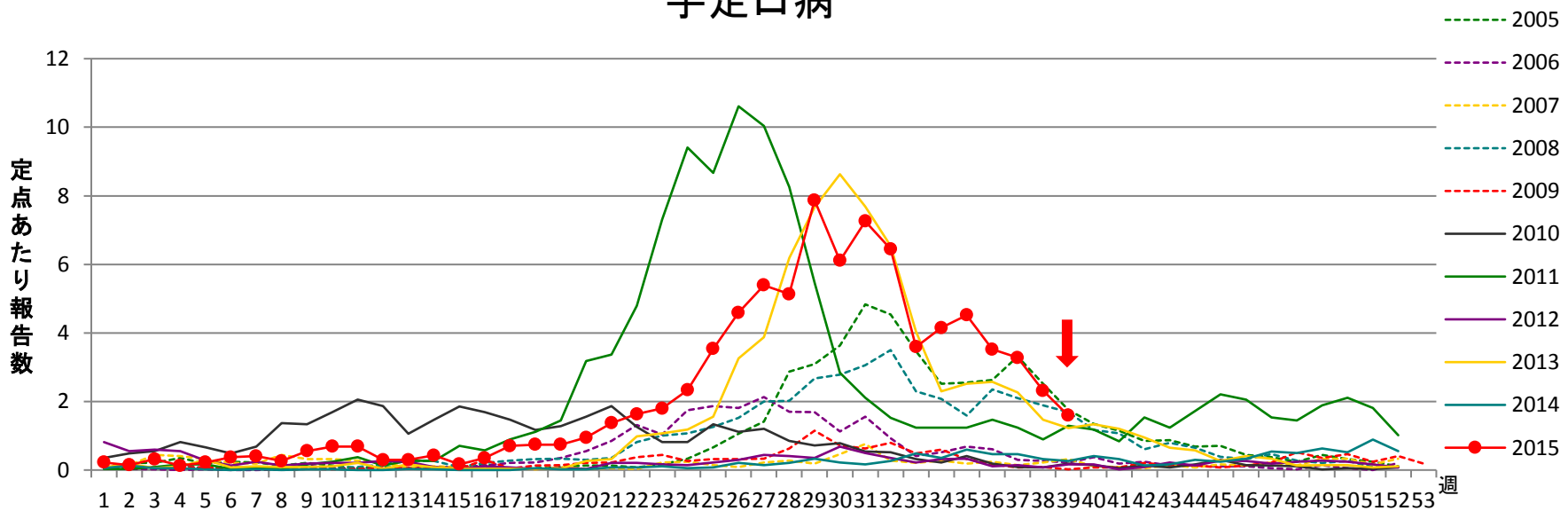
感染性胃腸炎



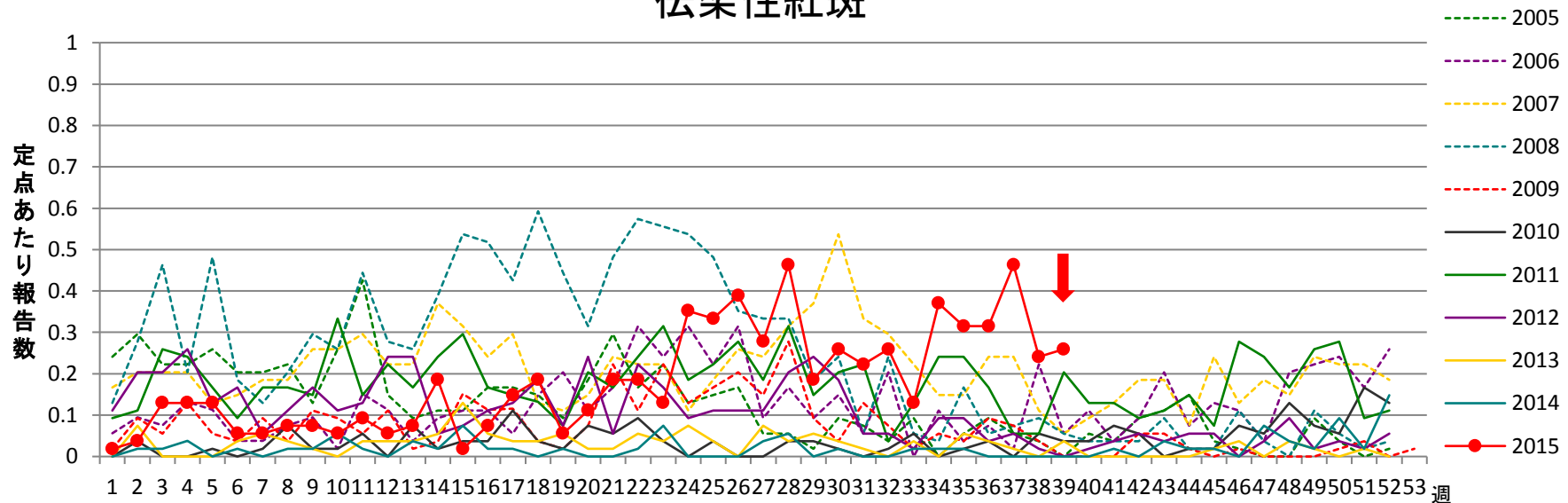
水痘



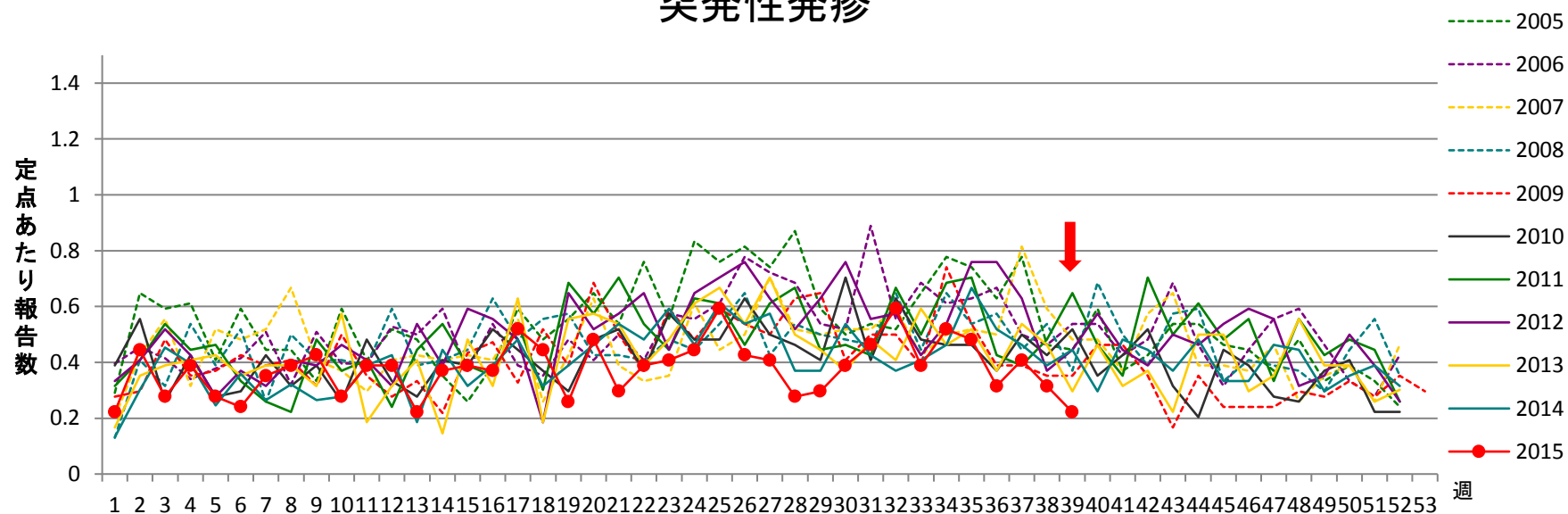
手足口病



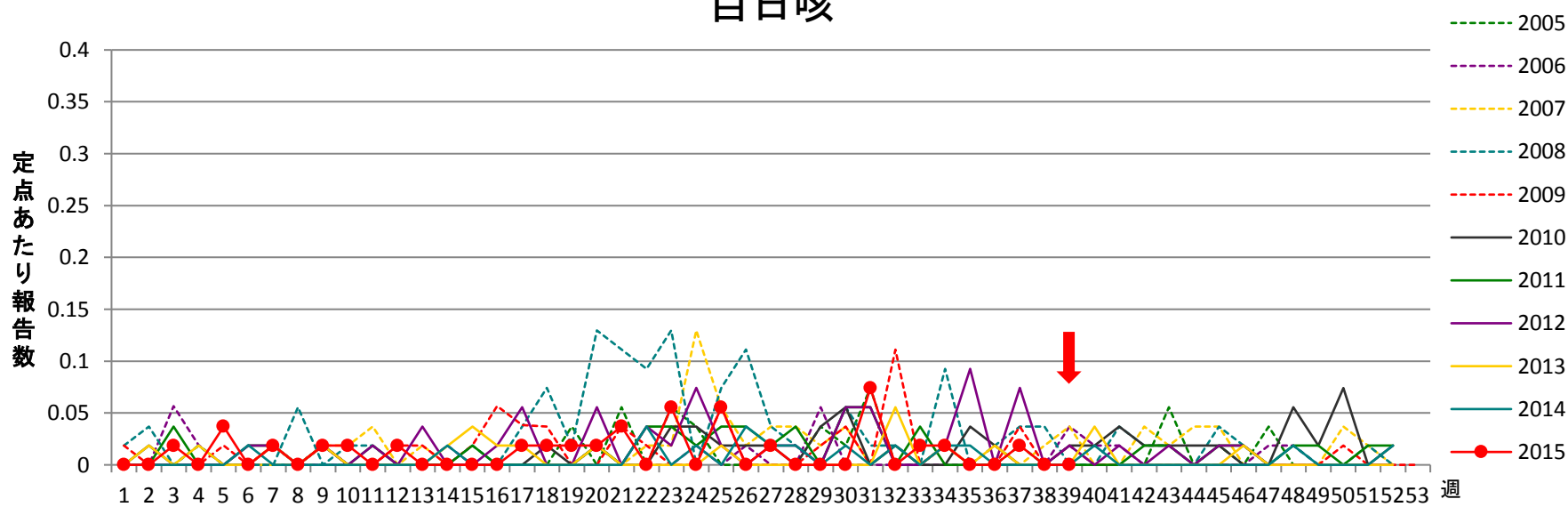
伝染性紅斑



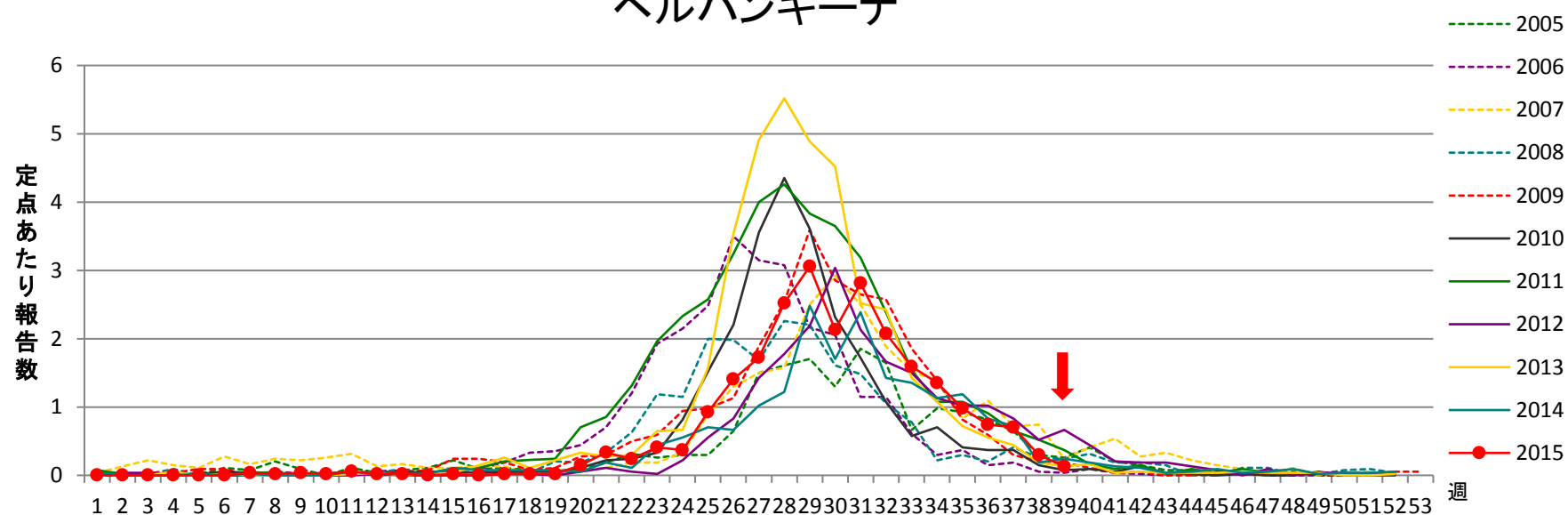
突発性発疹



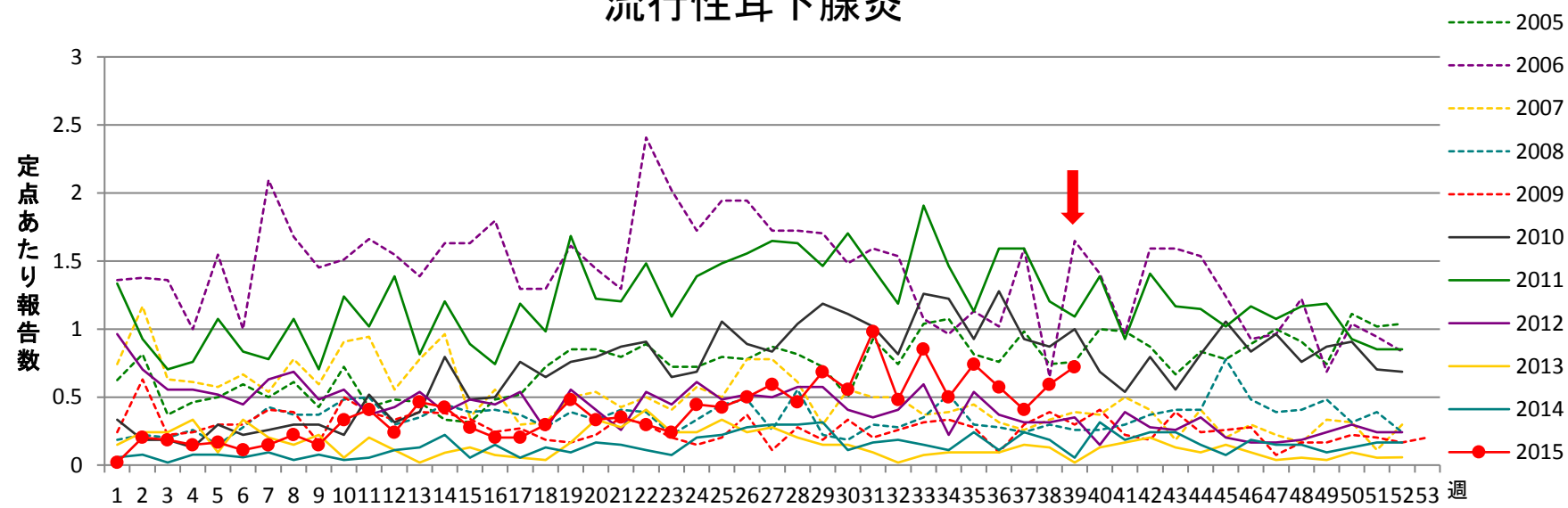
百日咳



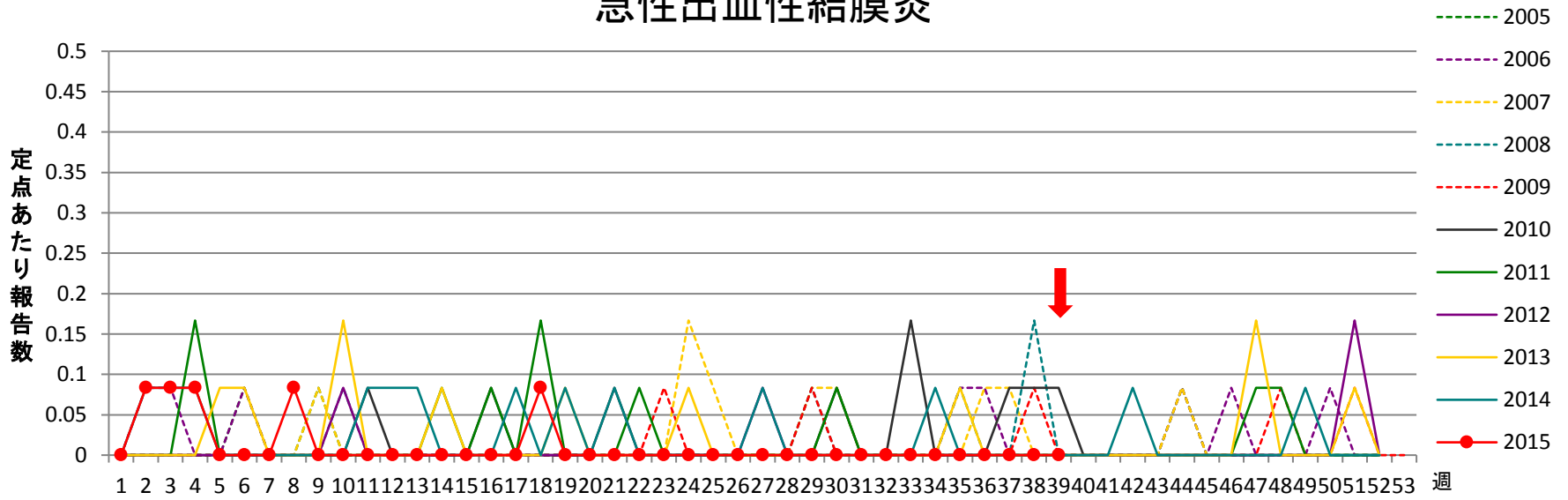
ヘルパンギーナ



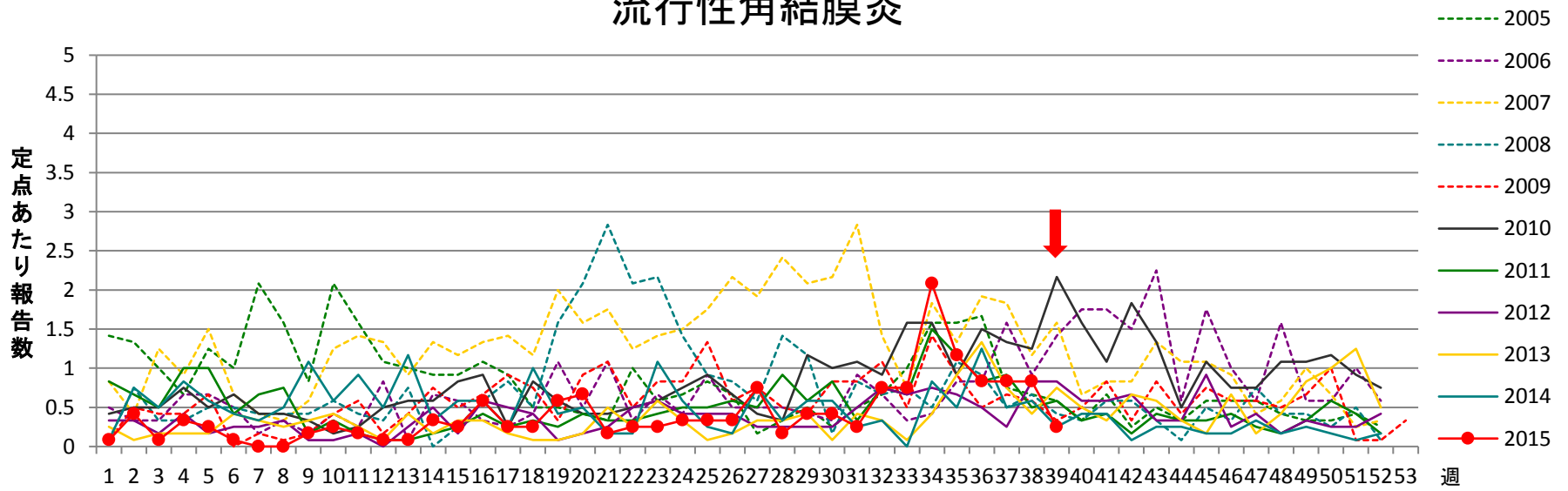
流行性耳下腺炎



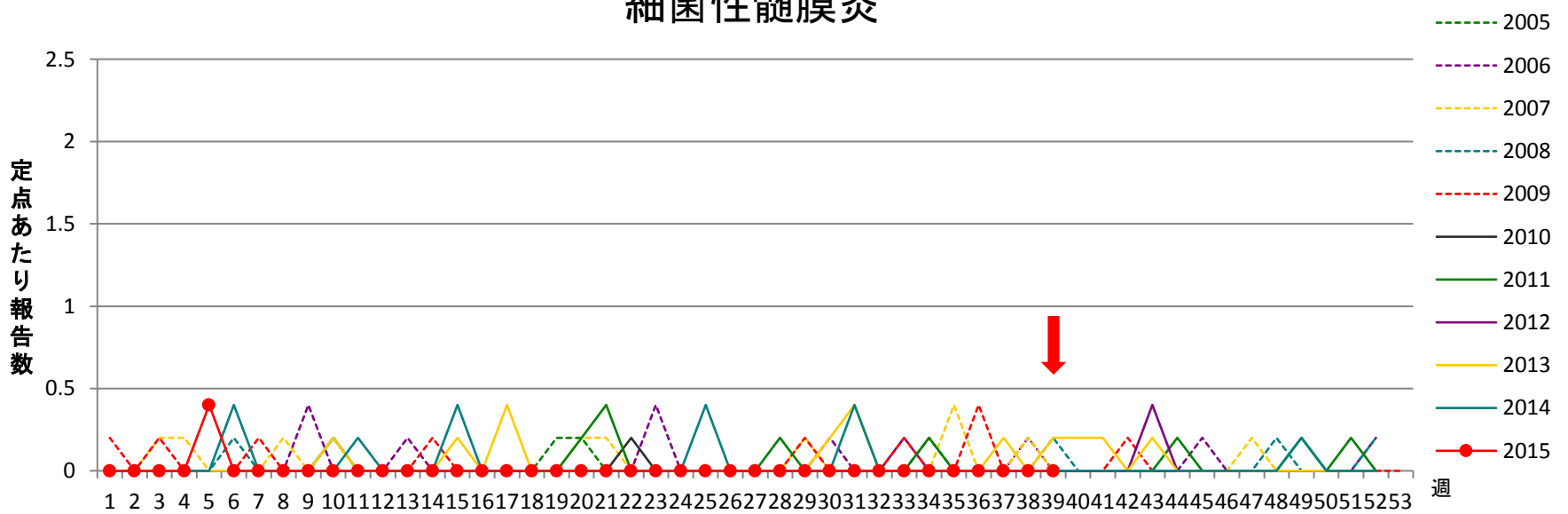
急性出血性結膜炎



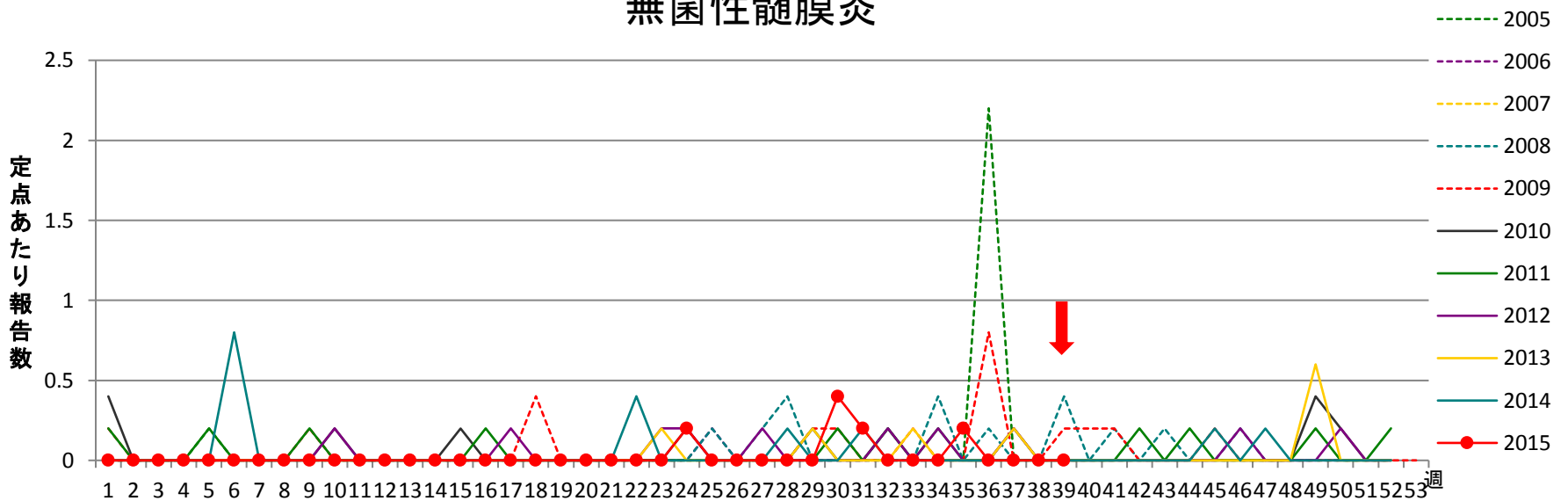
流行性角結膜炎



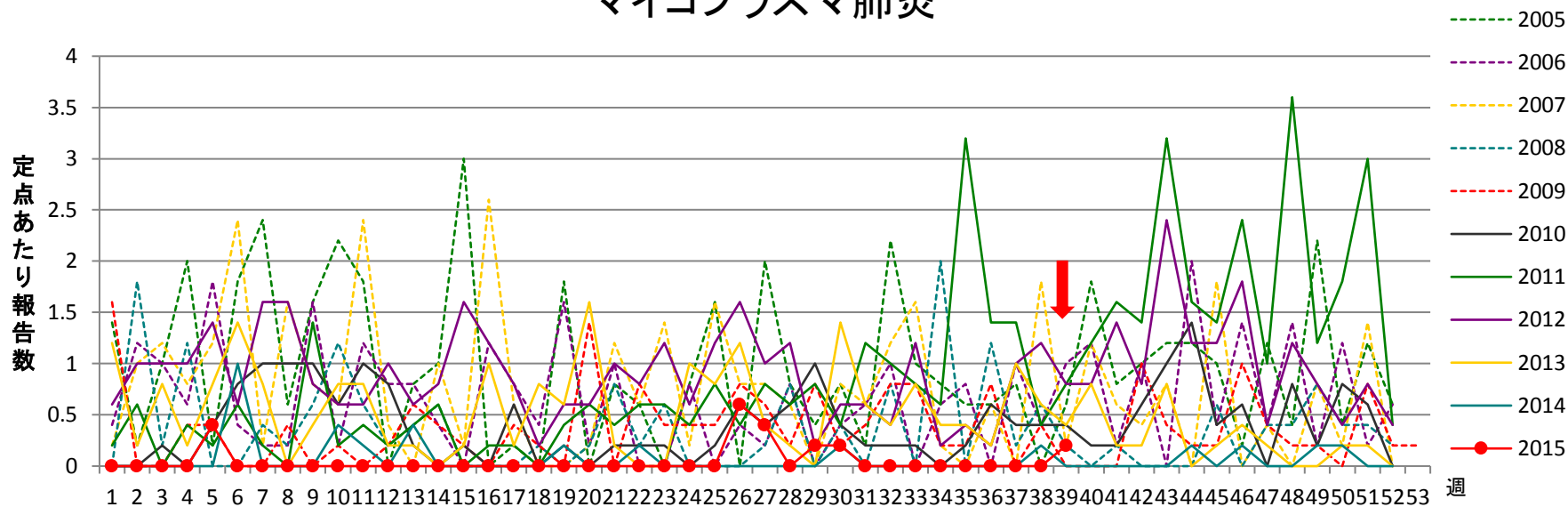
細菌性髄膜炎



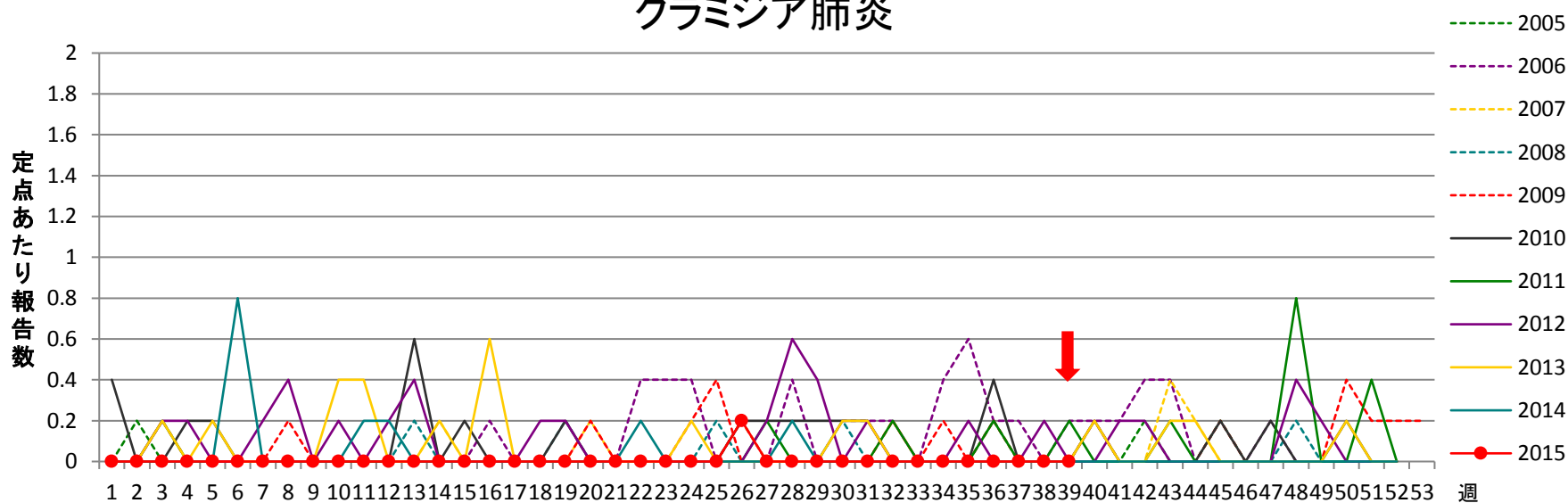
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

